

近年問題になっている新興・再興感染症・ One Healthとしての感染症

感染症を知り己を知れば 百戦殆うからず

札幌医科大学医学部感染制御・
臨床検査医学講座教授

たか はし さとし
高 橋 聡

私が札幌医科大学の泌尿器科学講座に入局した時、泌尿器科領域の感染症研究はそれなりに盛んであった。私は迷うことなく感染症チームに進んで加わり一貫して感染症研究を継続してきた。しかし、今は亡き熊本悦明先生が教授職を退かれたあたりから、全国的にも泌尿器科領域の感染症研究には翳りが見えた。本学の泌尿器科学講座では塚本泰司前教授（北海道医報連載「生涯教育シリーズ」No. XVIIで「感染症—今、何が問題となっているのか？」（平成17年3月から18年7月）を共同監修）の下、感染症チームは少数精鋭のメンバーで存続していた

が、他大学では感染症チームは次々と消滅していた。もはや、多くの医師の興味は感染症ではなくなり、感染症は制御が容易で治癒可能な取るに足らない疾患群と見做されていたような印象があった（実際、講座内の他の研究チームから、「感染症なんて・・・」「感染症は治るからいいよな・・・」という言葉投げかけられたことも一度や二度ではない）。私自身も感染症研究を継続する意義を自問自答していた時期もあった。

国内外で感染症の流行が発生した時でさえ、流行期間が限定的であったことや、直接我が国への影響がなかったことから感染症への対応を火急のことに認識していたかどうか、今となっては不十分であったと思われる。そして、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が始まって早3年になろうとしているが、感染症に対する備え（知識、理解、感染予防策、治療など）が如何に十分でなかったのかを思い知らされることとなった。

後ろ向きな記載はそろそろやめて、前向きで建設的な記載に変えることとするが、本シリーズでは、北海道内で感染症診療、感染症研究に携わられている先生方に玉稿を賜った。北海道の感染症診療・研究には過去も現在も多くの特任者があたっており、北海道から発信された感染症や病原微生物も数多くある。北海道の感染症診療・研究レベルは低いとの発信があるやに聞くが全く当たらない（笑止千万である）。

生涯教育シリーズXXIV 「近年問題になっている新興・再興感染症・One Healthとしての感染症」 (医報 令和5年1月号から順次掲載)

項目	執筆者	所属	医報掲載予定
1 感染症を知り己を知れば百戦殆うからず	高橋 聡	札幌医科大学医学部感染制御・臨床検査医学講座教授	令和5年1月号
2 性感染症	安田 満	札幌医科大学医学部感染制御・臨床検査医学講座准教授	" 2月号
3 梅毒	砂押 研一	ていね駅前泌尿器科院長	" 3月号
	高橋 聡	札幌医科大学医学部感染制御・臨床検査医学講座教授	
4 COVID-19の疫学と感染対策	黒沼 幸治	札幌医科大学医学部呼吸器・アレルギー内科学講座准教授	" 4月号
5 COVID-19の検査法	高橋 聡	札幌医科大学医学部感染制御・臨床検査医学講座教授	" 5月号
6 COVID-19の治療法	中久保 祥	北海道大学大学院医学研究院呼吸器内科学教室助教	" 6月号
7 COVID-19の重症化と重症化予防のメカニズム	村上 正晃	北海道大学遺伝子病制御研究所分子神経免疫学分野教授	" 7月号
8 COVID-19に対するECMO治療の適応と課題	成松 英智	札幌医科大学医学部救急医学講座教授	" 8月号
9 免疫低下患者の感染症	藤田 崇宏	北海道がんセンター感染症内科医長	" 9月号
10 One Healthとしての耐性菌感染症	臼井 優	酪農学園大学獣医学類食品衛生学ユニット准教授	" 10月号
11 近年問題となっている耐性菌感染症	藤谷 好弘	北海道立衛生研究所感染症センターセンター長	" 11月号
12 近年問題となっている人獣共通感染症	鈴木 定彦	北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所バイオリソース部門教授	" 12月号
13 小児のウイルス感染症	津川 毅	札幌医科大学医学部小児科学講座教授	令和6年1月号
14 結核	網島 優	北海道医療センター内科系診療部長/感染対策室長	" 2月号
15 非結核性抗酸菌感染症	大崎 能伸	旭川医科大学名誉教授/慶友会吉田病院	" 3月号
16 マダニ媒介感染症	児玉 文宏	長岡赤十字病院総合診療科部長	" 4月号
17 エキノコックス症	迫 康仁	旭川医科大学寄生虫学講座教授	" 5月号
18 感染症危機管理	石井 安彦	北海道保健福祉部感染症対策課医療参事	" 6月号

本シリーズの最初の2題は性感染症とした。性感染症は、一般的にはどこか別の世界の感染症という印象があるようだが、多剤耐性化が問題となっている淋菌や有効な薬剤が限られてきているマイコプラズマ・ジェニタリウム、さらに、報告数が急増している梅毒について、是非とも知識を共有していただきたい。そして、現時点では進行形ではあるが、道内でも多くの医療従事者、福祉施設関係者、そして、行政の担当者が格闘している新型コロナウイルス感染症について、5つの角度からまとめ貴重な記録とさせていただきたい。さらに、免疫低下患者の感染症、耐性菌、ウイルス、抗酸菌、人獣共通感染

症など様々な感染症についてまとめ、診療科横断的な疾患である感染症について知識を深めていただきたい。最後の締めは、我々一人一人がしっかりと認識すべき危機管理、特に、感染症危機管理について行政の立場からまとめていただく。

本シリーズでは、地道に着実に診療や研究を積み重ねてこられた、また、コロナ禍において先頭に立って戦っている先生方が、多忙の中、玉稿執筆を快諾してくださった。心から感謝の意を表したい。本シリーズが、感染症を知ること、そして、今時点、また、これからの感染症との戦いの一助になれば幸いである。



ドクターの人生に寄り添い、 希望にかなう働き方を全力応援！



北海道医師会 医師キャリアサポート相談窓口 北海道中央区大通西6丁目 北海道医師会館



0120-112-500

(受付時間 月～金 9:00～17:00) FAX. 011-231-7272

詳しくは専用ホームページをご覧ください

<http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien/>

